

160. 高校でのコンピュータの学習内容は

【問い】 中2の長男が、高校を卒業したら、コンピュータ関係の仕事につきたいと考えているようです。コンピュータのことは、よくわかりませんので、話し合いの糸口がつかめません。高校では、コンピュータについて、どのようなことを教えているのでしょうか。

【答え】 コンピュータの勉強には、機械を作るハードウェアと、それを利用するソフトウェアの2つの分野があります。

高校で扱う内容は、主にソフトウェアの分野なので、これについて説明しましょう。

① コンピュータを利用するためには、仕事の手順を、人間がコンピュータに教えなければなりません。これは、コンピュータ特有の言語で書いたもので、プログラムと呼ばれています。実習をとおしてプログラムの作り方を勉強します。

② コンピュータは速く、正確に仕事を達成し、人間が教える仕事の手順に誤りがあると、そのとおりに仕事をするので、注意しなければなりません。1人でプログラムを書けるようになったら、正しい仕事の手順を作る方法を具体的な事例に基づいて、勉強します。

③ コンピュータは大変便利な機械なので、あらゆる面に利用できる可能性を持っています。しかし、だれが、いつ、どこで、どのように利用するかは個々のケースによって違うので、十分検討しなければなりません。このような利用方法について勉強します。

高校では、これらの内容について、基礎的・基本的事項の理解を目標として、商業や工業に関する学科で指導することになっています。（学科によって内容が、若干異なる場合があります）